

泰日工業大学・キングモンクット工科大学ラカバン校 (タイ王国) 訪問報告

鈴木 俊哉 *

Report on Visiting to Thai-Nichi Institute of Technology and King Mongkut's Institute of Technology Ladkrabang

SUZUKI Toshiya

Abstract — In this paper I report on my visiting to Thai-Nichi Institute of Technology and King Mongkut's Institute of Technology Ladkrabang, both in Thailand, during 13th –18th Aug. 2018. In that summer, 8 students of our college attended summer training program at both institutes. This visit was also to lead the students.

Key words : Thai-Nichi Institute of Technology, King Mongkut's Institute of Technology Ladkrabang, summer training program

1. はじめに

2018年8月13日から8月18日にかけて、タイ王国バンコク市にある泰日工業大学 (Thai-Nichi Institute of Technology, TNI) およびキングモンクット工科大学ラカバン校 (King Mongkut's Institute of Technology Ladkrabang, KMITL) を訪問した。

TNIは日本式のものづくりをタイで普及させるために設立された大学であり、多くの卒業生がタイに進出している日系企業へ就職している。本校とは2018年10月に学術交流協定を締結したが、それに先立ち本校学生の短期留学を受け入れていただいた。またKMITLはタイの経済発展・工業化を支える人材を数多く輩出してきた大学であり、本校とは2013年に学術交流協定を締結、相互に短期留学生を受け入れている。今回の訪問は、両大学へ短期留学する本校学生8名 (本科生7名、専攻科1名) の引率の他、新たに交流を始めたTNIの視察、および数年に渡り交流を続けている KMITLの視察を目的とするものであった。

2. 釧路出発からバンコク到着まで

8月13日、学生7名 (本科生6名、専攻科生1名) とともに釧路空港を出発し、羽田空港へ向かった。羽田空港でもう1名の学生 (本科生) と合流し、派遣予定学生8名全員が揃った後、出国審査を通過、スワンナプーム国際空港 (タイ王国バンコク市) へ向かう便の出発を待った。スワンナプーム空港と羽田空港の間には定期便が就航しており、本校の学生・教職員のように地方都市に在住する者にとって、大変便利である。出国審査では特に問題もなく、引率の立場としては、まずは安堵した。

羽田空港を日本時間深夜00:05に出発し、スワンナプーム国際空港にはタイ時間早朝04:35に到着した。入国審査では、学生1名が入国目的を上手く伝えることが出来ず、少してこずってしまっていたが、無事に入国することが出来た。入国目的を簡潔かつ正確に伝えるよう事前指導をしてはいたのだが、指導が不十分であったのかもしれない、反省点であった。

入国審査を通過した後に手荷物を受け取ったが、その後の手荷物検査は全くなく、ゲートを通過できた。(手荷物検査がなかった理由は不明である。)

ゲート通過後、事前に指示を受けていた空港ターミナル内の合流地点に移動した。この合流地点には

* 釧路高専創造工学科電気工学分野

「Meeting Point」と書かれた青い大きな目印があり、大変分かりやすかった。

なお空港ターミナル内には、外国人向けのプリペイド sim を扱っている通信会社のショップやタイ・バーツ (THB) に換金できる両替店があり、合流を待つ間にタイ国内で使える sim や THBを入手できる。ただしレートは市内の両替店の方が有利なので、空港では当面必要な額だけを両替するのが良いようである。(それでも日本で両替するよりは、ずっと良いレートであるが。)

合流地点に移動後、タイ時間午前7時過ぎにTNIの国際部の方が車で空港に迎えに来て下さり、TNI派遣留学生(本科生4名)と私はTNIに向かった。KMITL派遣留学生(本科生3名と専攻科生1名)はKMITLの迎えを待つことになったが、後に無事にKMITLからの出迎えと合流した。

3. TNI訪問

TNIはタイと日本の経済交流団体である泰日経済技術振興協会 (Technology Promotion Association (Thailand-Japan), TPA) が母体となって設立された大学である。日本式のものづくりをタイで普及させることを目的としていて、タイに進出している日系企業がインターンシップの受け入れや専門家の派遣などで協力しており、日系企業に多くの卒業生を送り出している。

TNIは工学部、情報技術学部、経営学部の3学部で構成されている。(他に大学院課程もある)。タイ語で授業が行われる通常のコースに他に、英語で授業が行われる国際プログラムが3コース新設された。これらのコースは、3つの学部に1コースずつ設置されていて、それぞれデジタル工学 (Digital Engineering, DGE)、データサイエンス・解析学 (Data Science and Analytics, DSA)、国際ビジネス経営学 (International Business Administration, IBM) となっている。

今回のTNIへの派遣留学は、情報技術学部のラチョーン学部長の大変なご尽力により実現したものであり、派遣留学生4名は全員、情報技術学部の国際プログラムDSAに受け入れていただいた。

3-1. TNI訪問1日目 (8月14日)

スワンナプーム国際空港から車で1時間弱で(道路が空いていれば、もっと早く着く距離だとは思いますが)、TNI近くの指定宿泊先のホテルに到着した。

このホテルは派遣留学生の派遣期間中(4週間)の宿になるホテルである。TNIへは徒歩10分程、途中にはローソンやファミリーマートなど日系コンビニエンス・ストアがあり、便利な所である。

実は国際プログラムはこの年に開講されたばかりであり、訪問初日のこの日は、偶然にも、開講セレモニー・第1回入学式の開催日であった。結果として、本校の学生(および私)は、開校式に出席することになった。

セレモニーは大変厳粛なものであり、事前に理解していなかった我々は大変緊張しながら参加したのだが、なんとか礼を失することなく式を終えることが出来た(と願う)。

式の後には、新入生のオリエンテーションや在校生による歓迎会が開催され、本校学生もこれに参加し、非常に歓迎されたようである。

3-2. TNI訪問2日目 (8月15日)

この日から実質的な研修が始まった。研修内容だが、基本的にはDSAの講義に参加し、放課後にラボの活動することになった。受け入れていただいたのが国際プログラムのコース(DSA)で、講義が全て英語で行われること、またちょうど新学期の始まりで講義に初回から参加できるということで、本校学生にとっては非常に恵まれた状況であった。

この日の講義は14:00までであり、学生達はその後に昼食を取ったようである(11:00から14:00までの3時間通しの授業だった)。昼休みが一斉でないあたりは、日本の学校より、時間割の組み方の自由度が大きいと感じた。

昼食後、15:00から情報技術学部の職員の方に案内されて、Data Science Research Laboratory (DSRL) という研究室に移動した。そこで本校学生の指導教員となるプラヤック先生にご挨拶し、研究室の大学院生の方々と互いに自己紹介をした。大学院生の1人は大変日本語が上手で、ご本人曰く「英語より日本語の方が簡単」ということである。

DSRLではPythonを勉強しつつ、データサイエンスの基礎を勉強することになった。研修前半の2週間はこちらの研究室でお世話になり、後半の2週間はまた別の研究室で活動することになった。

3-3. TNI訪問3日目 (8月16日)

この日の講義は昼頃に修了し、14:00から研究室での活動になった。研究室ではプラヤック先生がプロジェクターを使ってデータサイエンスについて

説明をしてくださった。また各自のパソコンの環境を整える作業などを行ったようである。

研究室の雰囲気は大変リラックスしていて、お茶やお菓子が出るティータイムのような時間も取られていた。また先生も大学院生も大変親切な方ばかりで、本校学生も打ち解けることができているようであった。

また派遣学生達に、講義への参加についての感想を聞いてみると、

- ・多くの学生と交流が持てることが非常に良い
- ・TNIの学生は日本（人）に興味があり、積極的に話しかけてくれる

とのことで、研究室でもDSAのクラスでも、本校学生がTNIの学生と親しく交流できているという印象をうけた。

4. KMITL訪問（8月17日）

今回のタイ訪問は、初めて学生を派遣したTNIの訪問がメインとなり、バンコク滞在4日のうち3日をTNIへの訪問へと当てたが、最終4日目は、数年に渡り交流を続けているKMITLを訪問し、KMITL国際部や派遣学生を受け入れて下さっている研究室へご挨拶に伺った。

4-1. KMITL国際部訪問

KMITL国際部の職員の方が、ホテルに近いTNIキャンパスまで迎えに来て下さり、その車でKMITLへ向かった。

KMITLと本校は2013年に交流協定を締結し、それ以来、相互に学生を派遣している。KMITLは国立の大きな理系の総合大学であり、バンコク市校外に広大なキャンパスを持っている（対してTNIは私立の小規模な大学であり、市中に所在している）。

KMITLも日本と縁の深い大学であり、日本の大学で学位を取得された先生も数多くいる。今回の派遣学生を受け入れてくださった先生にも日本語を理解される方がいた。

KMITL国際部のオフィスは広大なキャンパスの中のプレジデントビルにあった。そこで国際交流担当のチャイアン副学長にご挨拶をし、長年の交流のお礼を申し上げた。チャイアン先生は副学長という要職にある方だが、大変お若い方であった。若くとも能力が高ければ要職に抜擢するという人事が行われているようで、今まさにダイナミックな発展の最中にある大学であるという印象を受けた。

4-2. 受け入れ研究室訪問

今回KMITLには4名の学生（本科生3名と専攻科生1名）を受け入れていただいている。

1名の学生は建築学科の学生であり、研究室の活動はまだ始まっていない、訪問時は、授業に参加することが主体であった。タイ語の授業のため、そのままではほとんど分からないのだが、周りの学生が英語や日本語で教えてくれるという事であった。

2名は機械工学科の学生で、こちらは両名とも研究室に所属していたが、具体的なテーマは相談中という事であった。

残り1名は電子情報システム工学の学生であり、半導体デバイスの研究室で半導体の動作特性シミュレーションを行うことになった。

5. おわりに

TNIとKMITLという2つの大学への4日間の訪問を短い頁数で振り返った。

TNIは街中の小規模な私立大学、KMITLは郊外の大規模な国立大学という、対照的な特徴を持つ大学であるが、それぞれに良さを持っている。大学の雰囲気は違うが、どちらの大学に派遣された学生も留学生活に満足しているようであった。

タイを訪問して非常に強く感じたことは、タイの人々の親切さである。また、この親切さは客人に対してだけ発揮されるものではないとも思う。タイの教員の学生への接し方を見ていると、概ね優しいと感じられた。社会全般で立場の上の者が立場の弱いものに対して優しく寛容に接する文化であるように思える。このような文化であればこそ、本校の学生達をあのように関心を持って受け入れてくれているのだと私には思えた。

今回の留学を経験した学生諸君が、単に語学や知識・技術を学んだだけでなく、タイの人々の親切さ寛容さから、何かを感じ取ってくれるたであらうことを大いに期待している。